

研究に参加された方への研究結果のフィードバック

専修大学人間科学部心理学科教授の国里愛彦です。この度は、澤村直樹さんの「匿名の相手から否定的なリプライを受けたときの不快感とソーシャルスキル、及びコーピング採用パターンとの関連」での調査にご参加いただき、ありがとうございました。以下が澤村さんの研究概要と結果になります。こちらをもって研究結果のフィードバックとさせていただきます。以下の内容について、疑問点やより詳細な説明がお聞きになりたい場合は、国里愛彦までお問い合わせください。

研究の概要と結果

本研究は、SNSにおける潜在的ストレスに対して心理学的ストレスモデルに基づいた研究が少ないことを指摘し、SNSにおける潜在的ストレスの中でも政府が深刻な社会問題としている誹謗中傷問題を取り上げた。誹謗中傷に類する場面として「匿名の相手から否定的なリプライが送られてくる場面」を参加者に想像してもらい、それに対する反応とコーピング採用パターン及びソーシャルスキルとの関連について検討することを第一目標、ソーシャルスキルとコーピングの関連性についての再現性を確かめることを第二目標として検討を行った。

使用した尺度は、参加者が投稿者の立場を想像したときの不快感を測定する不快感得点尺度、ソーシャルスキルを測定する KISS-18、コーピングの採用傾向を測定する TAC-24 であった。

調査の結果、ソーシャルスキルについては、ソーシャルスキル中群が低群よりも不快感得点が有意に高かった。コーピングの採用傾向については、コーピング採用傾向の違いによって「積極的問題解決型」「肯定的解釈・回避型」「非回避型」「計画立案・回避・非カタルシス型」の4つのクラスターに分けられ、不快感得点との関連を見た結果、クラスター間に不快感得点の差は見られなかった。ソーシャルスキルとコーピング採用パターンの関連については、「積極的問題解決」が「肯定的解釈・回避型」「計画立案・回避・非カタルシス型」よりもソーシャルスキルが有意に高く、ソーシャルスキルと個々のコーピング採用との関連について調べた結果、ソーシャルスキルと「計画立案」「情報収集」「気晴らし」との間に有意な正の相関、「放棄・諦め」「責任転嫁」との間に有意な負の相関が見られた。

以上の結果より、第一目標については、「匿名の相手から否定的なリプライが送られてくる場面」の不快感とコーピングの採用パターンの関連は見られなかったが、平均的なソーシャルスキルであれば不快感を低減させることが示唆された。第二目標についてはソーシャルスキルの高い者は積極的に問題解決を行い、ソーシャルスキルの低い者は問題を回避する傾向にあることが示され、ソーシャルスキルとコーピングの関連性を裏付けることとなった。これらの発見により、SNSの誹謗中傷問題対策として、ソーシャルスキル及びオンラインコミュニケーションスキルを高めることが効果的であることが示唆された。しかし、本研究で使用した不快感得点尺度が妥当でなかった可能性が示唆され、SNSにおける潜在的ストレスとソーシャルスキル及び心理学的ストレスモデルの関連について再検討することが期待された。